

平成24年度 馬堀中学校自己評価及び学校関係者評価

校務分掌		分掌のねらい		具体的な手立て	自己評価	課題	学校関係者評価	
運営セクション	総務部 目標：教育プログラムが円滑に推進するよう、計画・調整する。	教務	教育課程の円滑な推進	○授業時数確保に向けた行事計画の作成 ○各部署との連絡調整の基盤	○おおむね計画通りに実施できた。	○連絡調整が不十分であった。	学校評議員による学校評価 学校評議員から見た生徒の様子 ○地域連携デーの取り組みにより、町内役員と中学生とのコミュニケーションが取れるようになった。 ○生徒は地域の行事にも参加しています。 ○ホテルの夏の活動に関わる生徒の意欲、意欲がとも高くなります。 ○馬堀中学校の生徒は良く挨拶ができる生徒が多いように感じる。 ○生徒が落ち着いて授業をしている姿が見られました。 ○先生方の指導が徹底されてきたように思います。 ○体育祭では生徒の責任感が高まってきているように感じた。 ○体育祭は活気あふれる生徒の姿から少数精鋭の若者の集団が頼もしく思えた。 ○生徒たちが大きくなって活気あふれる住宅地になることを期待しています。 要 望 ○学校の先生、生徒、全体的にこの良い状態を継続してほしいと思う。 ○学校と保護者、地域が一体となり、子どもを育み、見守る事が大切であり、学校教育の前に家庭教育だと思ふ。 ○保護者と校長との話し合いの場が設けられたらよい。 ○ホテルを部活動として認定してみたいかがですか。 ○地域連携デーの時間はもう少し長い方がよいと思う。	
		学籍	学籍関係の諸帳簿の管理	○出席簿、更録の配布と点検の実施 ○成績簿表、一覧表の管理 ○転出入に関する書類の管理 ○教科書関係の書類作成・発注の実施	○問題なく教科書納入ができた。 ○出席簿の管理用ファイルを見やすい物に変えた。	○転出入手続きマニュアルを作る必要がある。		
		情報管理部	事務作業の短縮、効率化	○情報管理の方法の周知徹底 ○成績処理の手順の明確化 ○HPの定期的な更新	○遅りなく情報処理が進んだ。 ○HPのリニューアルができた。	○HPの定期的更新が不十分であった。 ○メールチェックが習慣化されなかった。		
		施設管理	環境整備	○毎月1日の安全点検 ○送納物品の適切な対応 ○防災訓練実施	○修繕箇所について管理職、用務員との連携し改善を図った。 ○送納物品の集約ができた。	○安全点検、備品点検が不十分なところがあった。		
		事務	円滑な学校事務 予算・経理の適切な処理	○牛乳給食・就学援助の適切な処理 ○学費未納対策 ○配当予算の適切な処理	○効率的、計画的な事務処理ができた。 ○学費未納対策として督促状を郵送できた。	○条例・規則に基づく適正な処理と現場実態からやむを得ず行っている事の明確化が必要。		
		管轄会議	予算委員会	予算・経理について適切・適正な処理	○各担当との緊密な連絡調整 ○条例・規則に基づく適正な処理 ○計画的な予算執行	○各分掌と連携を密にしながら予算執行ができた。		○12月に全体へ執行見込みを報告できず、管理職との協議にとどまった。
			教育課程委員会	研究テーマの実践的追究	○年間行事計画の作成 ○校内研修の企画・運営 ○学校評価の企画・実施 ○研究委託の実践	○おおむね計画通りに実施できた。		○授業時数の確保が課題である。
			調査書委員会	調査書の適正な記載と管理	○全校点検日の冬休み前の実施 ○見直しを持った取り組み	○とてもスムーズに行うことができた。		○調査書作成の手順は本委員会から提示すべきである。
			評価検討会	適切な評価評定の実施	○評価時期毎の適正な評価評定	○おおむね計画通りにできた。		○評価評定の入力締め切りが厳守されていない。
			防災委員会	安心安全な学校づくり	○防災計画の作成 ○地域名簿の作成 ○地域連携デーの実施	○地域連携の反省を生かし防災訓練が実施できた。		○分掌内での連携が不十分であった。
支援セクション	学習支援部 目標：基礎基本の定着、自ら学び、自ら考える力を伸ばす教育実践	学習支援部全体	学力の向上 学び合う集団づくり	○授業研究の充実 ○評価評定の研究 ○家庭学習の充実	○授業力向上を図る努力ができた。	○学力向上に向けてさらに工夫改善が必要である。 ○学力に関する検証が必要である。		
		総合学習指導	生きることの意味を理解させる 地域との連携を深める	○各学年テーマに沿った計画の作成と実施 ○商工会議所との連携の充実	○生徒が自らの生き方を考える活動ができた。	○生徒が自ら行動できる力をよりつめるための工夫が必要である。		
		図書担当	利用しやすい図書室の運営	○書籍整理、管理	○PTA図書ボランティアのお陰で新書の受け入れ作業が迅速に行われた。 ○リクエストボックスが活用された。	○ボランティアとの連携をさらに深める。		
		視聴覚指導	活用しやすい環境整備	○視聴覚機器の管理全般	○放送室の整備を行い使いやすくなった。	○機器を利用した後の元の場所に戻すことができていない。		
		生活支援部全体	自主的、自律した行動ができる生徒の育成	○計画的な指導の実践	○言葉遣いを意識する生徒が増えた。 ○ルールを守る意識が見えてきた。	○あいさつができていない。		
		学級指導・進路指導	一人一人が存在感のある学級づくり	○生徒が所属感を持つ学級づくりの実践 ○日々の基本的生活習慣の確立	○生徒が集団としての協力が向上してきた。	○まだ、個人主義の意識が強い。		
		道徳指導	道徳教育の推進	○月ごとの指導計画の立案 ○実践資料のファイリング	○タイムリーな内容を扱うことができた。	○オフラインが不十分である。		
		生徒会指導	リーダーとしての力の向上と、主体性の育成	○各行事に主体性を持って関わらせる	○リーダーが活動する場面を持つ事が出来た。	○生徒会役員が後継の範囲から外れると一般生徒と同じ動きになってしまう。		
		生徒指導	基本的生活習慣の定着と自主性の育成	○ルールの順守 ○問題行動に対しての早期発見、早期指導	○教師間の情報交換、連携がとれるようになってきた。 ○多くの生徒が基本的な生活習慣が身につけてきている。	○指導項目で徹底できていないところがある。		
		美化指導	生徒の環境美化への意識の向上	○清掃用具の補充 ○清掃指導の徹底	○清掃への意識が出てきた生徒が増えた。 ○用具の補充がスムーズにできた。	○全体的に清掃に対する意識がまだ低い。		
連携部	育成セクション 目標：自主的、自律的な行動ができる生徒の育成。ゆるぎない正義感を持つ生徒の育成。自分と他人を大切にしている生徒の育成。	保健指導	ライフスキル教育を基盤とした心身の健康づくり	○学年と協力して保護者面談等ができた。 ○ネット犯罪防止、薬物乱用防止教育が定着してきた。	○生命の教育についての指導が不十分である。			
		部活指導	生活面の指導を支える場づくり	○規律やマナーを守る心を育てる ○人間性の向上を目指す ○部長会を適宜実施する	○規律やマナーを実行しようとする姿勢が見られた。 ○協力しながら自主的に活動を行うことができていた。	○活動場所、用具の管理を徹底すること。 ○グラウンドの安全面を工夫すること。		
		支援教育・登校支援	生徒が出会う問題状況の解決援助 生徒及び保護者の気持ちを受け止め、共に問題解決に当たる	○実態把握をする ○支援・指導方法の検討をする ○職員会で情報提供を行う	○情報提供ができた。 ○教室復帰できた生徒、修学旅行へ参加した生徒などがいた。	○支援教育担当者がSCと打合せできる時間割の配慮が必要。		
		ホテルの里	生徒、PTA、地域の方が共に参加する場づくり	○ホテルが発生する環境づくり ○植物昆虫の観察 ○情報の発信に努める	○望洋小学校児童対象のホテル観賞会が実施できた。	○活動に参加するメンバーが限られている。		
		青少年地域連絡会	青少年地域連絡会との窓口となり、地域連携の推進	○会内に於いて情報交換を行う ○会の運営に協力する	○年間3回の情報交換ができた。	○連携の強化がより必要である。		
		小中連携	教育活動に有効な小中連携活動	○近隣4校の担当教師と連絡を密に取る ○小学生対象の活動を実施する	○連携行事ができた。	○教員のスポーツ交流の競技種目の検討が必要である。		
		PTA	保護者と協働してより良い教育環境づくり	○運営委員会の定期的な実施 ○各行事への協働体制作り	○計画的な運営ができた。	○PTA顧問とPTA役員との連携が不十分であった。		
		1年学年会	学力、生活の基礎基本の定着	○基本的な生活習慣の徹底 ○達成感を味あわせる指導 ○豊かな心を育む	○基本的な生活習慣はおおむね確立できている。	○学力の定着には至っていない。		
		2年学年会	学力、生活の基礎基本の定着	○生徒一人一人についての理解を深める ○正義感の育成 ○学力の向上を図る	○全体的に授業・行事に前向きに取り組んでいる。	○よりよい人間関係を構築する必要がある。		
		3年学年会	自主的、自律的な生徒の育成 前向きに頑張れる生徒の育成	○共通理解と統一的指導 ○自ら学ぶ集団の育成 ○計画性を持った指導	○全体としては、協力、協働できる集団になってきた。	○生徒の心に迫る指導は低学年から必要である。		
特別支援学級	社会性、人と関わる力の伸長	○安心感、信頼感を重視する ○一人一人の興味関心に応じた課題を設定する	○学習に意欲的に取り組む生徒が見られた。	○登校に積極的でない生徒の指導が難しい。				